

令和6年度 学び舎ひまわり第3講 開催報告

日時 令和6年 10月12日(土) 13時~16時

会場 区役所6階 601・602・603号 会議室

受講生 26名(地域13名 企業3名 ケアプラザ1名 区役所9名)

プログラム内容

様々なジャンルの取組を4つとりあげ、当事者による取組内容の説明を聞いた後、グループ別に意見交換をしました。

事例① 港南つつじが丘自治会の取組

発表者：脇田 和郎 氏

『自治会でできる在宅避難者（被災生活者）支援策の検討』



防災拠点訓練は発災直後の対応が中心だが、訓練終了し帰宅するとそこで切れてしまう。本番は避難生活が始まるが支援が全くない。そこを何とかしなくてはいけない。意見交換会で帰宅避難者の支援はどうあるべきか、意見交換してもらった。それが言いっぱなしにならないように動こうとしています。災害時助け合いグループを作っており、災害時には助けようとなった。在宅避難者の長期にわたっての対策を検討している。高齢化進むが、私がやりましょう、メンバーに加えてくださいという人もいます。こういう状況を広げていきたい。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・長期にわたっての対策を検討とのこと、他地区でも運用可能な内容ならぜひ内容を公表してほしい。
- ・自治会の名簿を作っていることが意外。現在は難しい。
- ・自分たちで出来ることは1週間分の食料確保、自治会町内会でも確保が必要。近所付き合いも大事。
- ・物資の配給を公平にとのことだが、ルール決めが難しそう
- ・自治会内部で災害対策本部を設立検討されているのがいいと思った。
- ・拠点はキャパオーバーのため自治会館を避難所として活用するのはいいと思った。
- ・いつか避難場所に集合後自宅に戻るが、その後も個別訪問し確認するなどのフォローが必要だと感じた。

事例② 西洗自治会

発表者：松本 昭彦 氏

『LINE を活用した情報伝達』



自治会の情報源である回覧板の「まわり」が遅いこと、必要な人に必要な情報を届けたいことから、広報誌を発行しホームページを立ち上げた。紙回覧か WEB 回覧かを各家庭で選択してもらったところ、半数以上が WEB を選択し紙回覧のペースが上がったが、WEB 回覧は見たかどうかの履歴が残らない課題がある。そこで公式 LINE を導入し、コミュニケーションツールとして、OPEN CHAT を採用。班会議などを通して、効果を実感している。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・ ホームページ制作を自宅で行っている人や社内報を作っている人を聞きつけて、人を募ったこと、前の会長の伝手も活用していることが素晴らしい。
- ・ 活動の継続については、1 人に依存しないように仕組みを作ることが必要。担当者が変わってもすぐ引継ぎできるほど簡単なことではない。
- ・ ホームページを作るところから始まり、定期的な回覧内容のアップする仕組みができたとのこと。そこから使用している人が多いLINEに移行していったのが自然発生的でいいと思った。
- ・ ホームページ作成を担当しているご家族が作った自治会のオリジナルキャラクター（ニッシー君とあいちゃん）がかわいらしくて効果的。

事例③ 永谷連合町内会子ども会の取組

発表者：蓮見 純子 氏

『子ども会を通じた子育て世代とのかかわり、つながり』



もともと母が地域活動をしており、なんとなくやるものと思って見ていた。私も PTA 活動から始め、子ども会に関わるように。町内会長が子どもを大事にして自治会活動される方で、また永谷連合自体が子どもの活動をさせていこうという考えで、子ども会の希望はほとんど応えてもらっている。子ども達の活動である太鼓の先生が高齢化してからは成長した子どもが教え、うまく継続している。役員などの担い手が不足した時は、自分から色々な人に話を聞き、出来そうな人、引き受けてくれそうな人を探し、声掛けをしてつながっています。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・若い人に自治会の活動に加わってもらうために、夏祭りに出てくるママやパパたちに、ちょいちょいと声掛けていくのが大事と感じた。
- ・こちらの気持ちはあらかさないとわからないし伝わらない。担い手の確保は長い目で見ているが遠慮はしないのがコツ。
- ・子ども会への勧誘については、まず町内会に子どもがどれくらいいるかを町内会に教えてもらうところから。連携が必須。
- ・活動に誘いたい人とは常に横並びの関係でいたいとのこと。話しやすい関係性が育ちそう。
- ・子ども会は単会にしかないことが多いが、連合でもあるといいということが分かった。
- ・子ども達の横のつながりも大事。同じ地域で集まるのは、子ども会しかない。町内会で楽しい思いをした子は「自分がやる」となる。その年代の子のつながりが、災害時にも活きる。

事例④ 野庭住宅連合自治会の取組

発表者：黒川 和紀 氏

『ふれあい祭り』（第2講にて現地見学）



来場者が6,000名を超えた「ふれあい祭り」の実施にあたっては、中学生・高校生からなる「ジュニアクラブ」、大学生からなる「野庭かがやき」のメンバーも担い手として参加。野庭出身の大学生から同窓会をやりたいという申し出があり、それがきっかけで彼らの参加が始まった。

イベントはかなり早くから準備を始める。そこから機運があがり、「今年もやるんだな」とイベントを知ってもらって参加を促している。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・開催時期と会場を変えたのは、夏の暑さを避けるためと、前日準備ができるからとのこと。的確な対応だと思った。
- ・人材の発掘については、会長が野球やサッカーの指導をしていたのでその時の子ども達とのつながりを活かして誘っている。
- ・次の世代へのプレッシャーにならないかとも思ったが、「会長が代われればイベント内容が変わるのは当たり前、同じことをしなくていい」という考えに共感した。
- ・会長判断で行っている会場の周辺道路の交通整理のやり方が効率的でいい。

まとめ（内海先生より）

4つの事例を聞いて、自分の地域ならどうやってやるかなと考えてみてほしい。どの事例にも徐々にいろんな人を巻き込んでいく、あるいは担い手が足りないところを補っていくような工夫を感じられた。上手くいっているポイントは何か、こういうことは課題になっていないかなど、今後も事例紹介者に直球で聞いてみると参考になると思う。

学びのまとめ 集計結果

回答数 26件 / 回収率 100%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
16	9	1	0	0
61.5%	34.6%	3.9%	0%	0%

受講生の声（抜粋）

- ◎どの事例も大変参考になった。もっと発表者の話を聞きたいと思った。
- ◎防災対策について、自分の地区でもできることから始めたいと思う。
- ◎ICTの活用により、自治会町内会の取組が周知・見える化され、担い手不足の課題解消に繋がると感じた。
- ◎自治会の活動に参加を促すのは、こまめに声掛けするのが有効だと思った。
- ◎事例紹介者のバイタリティや人柄に感動した。
- ◎事例発表者それぞれの地域事情を知ることが出来た。（職員）
- ◎事例発表者の「やりたい」という気持ちが強く、それを周りに伝えながら活動が進んでいるのを感じた。（職員）